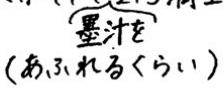


第2回 サイエンス・コ・ラボ 実験レポート

(秀光) 1年・特進 年 組 番 氏名 _____

期日	平成30年度6月30日(土)	テーマ	酵素でバイオ発電
場所	宮城野校舎 1F 中講義室	指導教官	東北大学大学院 工学研究科 教授 西澤 松彦 先生

1 実験記録（機材、手順、実験内容など）

1. 電極作製 - ナノ墨汁塗布 - 電気を流す紙を作る ・導電性インク(ナノ墨汁)を紙に塗って、導電性和紙を作製 ①ナノ墨汁と筆を使って、任意の文字を書く。 ②十分に乾燥させてから、テスターを使って導電率の測定をする。 ※2000mVにセットする。(CNTで電気が通るようになる)	2. 酵素電極の作製 ・酵素を付けるための導電性和紙を作製 ①濾紙をとりだす。②濾紙の多くが重なっているので、一枚に剥がす。③ピンセットに挟む。 ※1枚用意する。 ④透明ゴムに置く。⑤針を取り出す。 ⑥濾紙を針で固定する。⑦スポットで2,3滴垂らす。  墨汁を (あふれるくらい)	3. 測定回路の作製 ①プレッドボードで電池評価回路を組み立てる。 ②LED点灯実験 → 乾電池の十側、一側をプレッドボードに接続し、LEDの点灯を確認する。 → 抵抗の確認 ①テスターに接続(2000mVにセット) → 測定した値を ②スイッチオン ③抵抗をチェック 「表1」に書き込む。
		4. 発電性能の評価 ①200mMグルコース溶液をビーカーに入れる。透明ゴムでビーカーに蓋をする。 ②酵素電極をセットする。 (負極 → 青色ピンセット、正極 → 赤色ピンセット)
		 グルコース溶液
		①2000mVにセット ②テスター / 回路 / 酵素電池を接続 ③スイッチオン → テスターで電圧を計測、グラフ化
		5. 酵素発電 & LED点灯 ①ジュースをビーカーに入れる。②LEDとピンセットを接続する。 ③電極をジュースに浸す。④LEDの点滅を確認する。 → コーラ、ゼロコーラ、カルピス、ゼリー、どう焼き
		ゼロでない 固形物

2

① 実験から分かったことや疑問点

4の実験において、グルコース(GOP)を含んでいるとき、発電できるということが分かった。このことを利用し、5の実験において、コーラやカルピスウォーターといった飲料水を使つて発電できるということが分かった。飲料水だけではなく、ゼリーやどう焼きといった固形物でも発電できるということも分かった。これらのことから、ヒトのからだでグルコースなどに分解できる糖が含まれている物質であれば、発電することができると考察できた。

② 興味深かった点

コーラなどの飲料水だけでなく、どう焼きでも発電できるというところが興味深かった。

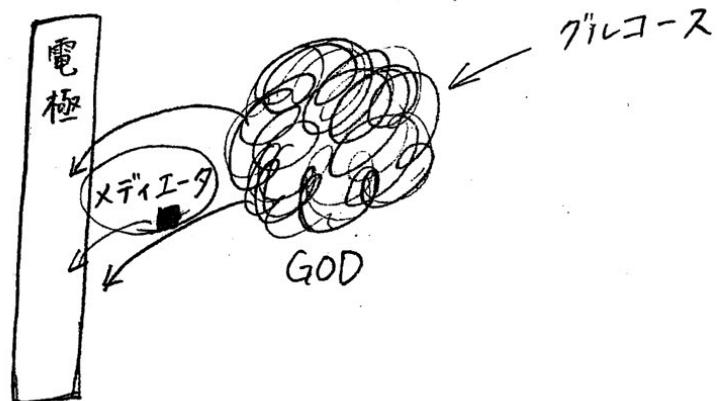
3 講義メモ

・(酵素) 生体触媒 (グルコースだけに反応する)
→ それ自身は変化しないが、化学反応を促進させる物質。

$\text{GOD} \rightarrow \text{グルコースの反応をはやめる}$ (-極)

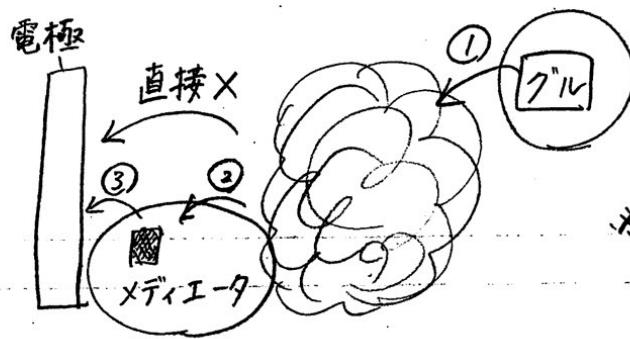
$\text{BOD} \rightarrow \text{酸素とも反応する}$ (+極)
(ビリルビン
オキシラーゼ)

* 乾電池の液の部分として、
コーラ、カルピス、砂糖水など
を使った



液中に含まれる
グルコースによって
発電

・(CNT) カーボンナノチューブ
炭素だけでできている
細長い
導電性ある(非金属だが)



* 場合によっては
グルコースがなくても
発電することがある。

4 感想

市販の飲料水やどら焼きを使って発電できることに驚きました。一般的な発電方法は、火力、水力、原子力、風力、地熱、太陽光などを利用していますが、今回のサイエンス・コ・ラボに参加し、酵素でも発電できることを知り、ますます興味が湧きました。特に、どら焼きを使った実験では、あんの部分に糖が多く、よく反応しました。生地の部分も反応しましたが、イオンの流れをつくるのに水で湿らせると、もっと反応しました。今回も、考える視野を広げるよい機会となりました。